議　　第　３８６　号
令 和 ５ 年 ９ 月 １ 日

港湾・公共交通対策特別委員会審査概要報告書

委員長　石須　大雄

Ⅰ　開催年月日　　令和５年８月３日（木）
Ⅱ　会 議 時 間　　午前 10 時 00 分～午前 10 時 29 分
Ⅲ　出席委員等　〔出 席 委 員〕◎石須　大雄　　○中村　清志　　新開　広恵
梅島　清香　　田中　勝文　　出町　譲
埜田　悦子　　林　　貴文　　山口　泰祐
坂林　永喜　　金森　一郎　　水口　清志
（◎…委員長　　○…副委員長）
〔議　　長〕　中川　加津代
〔副　議　長〕　酒井　善広
〔説　明　員〕　別紙名簿のとおり（山森都市創造部次長・都市計画課長が病気療養のため欠席）
〔委員外議員〕　なし
〔事務局職員〕　笹島　永吉　　高嶋　史恵　　野口　広大
〔傍　聴　者〕　なし

Ⅳ　審査の概要

１　報告事項について

〈　当局から、次の報告・説明があった。　〉

〔未来政策部〕
⑴ 近年の公共交通利用者数の推移について
⑵ 令和４年度高齢者向けバス定期券（ゴールドパス）割引販売の結果について
⑶ 令和５年度高岡市北部地区を巡る周遊ツアーバスの利用実績について

〈　委員から、次のとおり質疑等があった。　〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【近年の公共交通利用者数の推移について】
○　公共交通利用者数の推移に係る傾向等については、あいの風とやま鉄道や JR、万

葉線、加越能バスの各社が同様の認識を持っているということでよいか。

△　各公共交通機関の利用状況については、各事業者から発表、公表されている情報について、それぞれと意見の交換・共有を図り、公共交通全般の傾向として示している。

○　資料には、「期待が持てる」等の記載があり、これらが各社の経営方針と合致しているかどうか確認させていただいた。

○　高齢者向けバス定期券について、免許返納者の推移とゴールドパス販売増加との関連性は。

△　免許返納者は令和３年まで増加傾向にあり、４年は、落ち着いている状況である。ゴールドパスの購入助成は、令和４年度からの取り組みのため、比較は難しいが、購入総数を踏まえると、ゴールドパスの認知はまだまだ進んでいないと考えており、利用者増と免許返納者の推移との因果関係に結びつく数字ではないと理解している。

○　認知が進んでいないということだが、高齢者の方は、生活に関わる交通分野に関して、すごく不安に感じていると思う。今後、市はどのような施策に取り組むのか。

△　ゴールドパスは、加越能バスが設定しているサービスであり、定年を迎える年代の方々に対して、日常的に利用できる定期券を提供しているものである。地域の高齢化が進み、市民から、日常の足となる交通に対する不安の声も市に寄せられたことから、事業者が提供するサービスに、市が支援する形で利用促進を PR しているところである。さらに地域の方々に認知いただくことが大切であると考えており、PR の方法や、地域への浸透については、引き続き事業者と相談しながら、検討していく。

○　事業者を頼りにしているイメージを受けたが、当然、行政においても、国・県・市が積極的に取り組む必要があると思っているので、市民の生活を守るために頑張っていただきたい。（要望）

○　定期券は、週に２、３回外出する機会がある方を想定していると思うが、利便性の点では、月に１、２回しかバスを利用しない方へのサービスも有効であると考えるので、検討いただきたい。また、ゴールドパスについては、自治会等に周知していると思うが、本当に必要な方には認知されていない。どのような施策なのか、事業者と協力し、必要とする方に情報を伝え、利用が進むよう努力していただきたい。（要望）

△　各事業者では、回数券の設定や、各種イベントと連携し、外出を促すような企画を用意しているが、周知が行き届かないということもあるため、事業者と連携して、SNS による発信など、様々な形で情報提供に努めているところである。イベントの関連団体からも広く周知いただけるような協力体制も作っていきたいと考えている。また、ゴールドパスは、３か月定期券の販売が伸びている。短期の定期券は、試しに利用いただいている方も増えていると考えており、今後も利用を広げていきたい。

○　ゴールドパスは、事業者が商品開発し、それに対して市が支援をするものであり、市が商品開発したものを事業者が販売しているものではないと理解している。この

ような意見が出ていることを、バス事業者にしっかりと伝えていただき、反映されるよう、ご尽力いただきたい。（要望）

〔都市創造部〕

◦ 伏木港の整備状況について

〈　委員から、次のとおり質疑等があった。　〉

【伏木港の整備状況について】

○　令和４年７月にバイオマス発電所が営業運転を開始し、１年が経過した。燃料となるチップやペレットなどは、海外から輸入する企業もあると聞いているが、この事業者は、どこから輸入し、仕入れているのか。

△　当初はロシアからだったが、戦争の問題もあり、現在は、東南アジア、ベトナム、カナダの方から輸入していると伺っている。

○　日本の山林では、伐採され、放置されている木を直接回収する企業もあると聞いている。今後、大気汚染等も懸念されるので、その点に係る調整もお願いしたい。（要望）

○　外構緑地整備の区間について、現在、冬期間は雪捨て場として利用されているが、整備が進んだ後は、雪捨て場として利用できなくなるのか。

△　外構緑地の整備については順次進めているが、未整備のところも多くあることから、暫定的に雪捨て場として使っている。今後、整備が進めば、雪捨て場として使える場所も減るため、整備状況を見ながら、雪捨て場をどのように確保していくか検討する必要がある。

２　その他

〈　委員から、質疑等はなかった。　〉

〈　当局からの報告はなかった。　〉

〈　以上で委員会を閉じた。　〉

港湾・公共交通対策特別委員会　当局説明員（15 名）

副市長	河 村　　幹 治		
未来政策部長 未来政策部政策監	鶴 谷　　俊 幸	都市創造部長	赤 阪　　忠 良
未来政策部次長 未来課長	日 名 田　　尚 明	都市創造部次長	椙 本　　敏 規
未来政策部次長 企画課長	新　田　裕　子	都市創造部次長	西 條　　正 輝
総合交通課長	表 野　　勝 之	都市創造部次長 都市計画課長	山 森　　久 史
		土木維持課長	割 田　　一 郎
産業振興部長	式 庄　　寿 人		
産業振興部次長	堺　　啓 央		
産業振興部次長	長 久　　洋 樹		
産業振興部参事（兼務）	西 條　　正 輝		
観光交流課長	森 川　　朋 子		
みなと振興課長	車　　忠　宏		